

# 令和7年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち バイオエコノミー推進人材活動支援事業における取組・成果概要

【代表機関名】（特非）東海地域生物系先端技術研究会

【事業実施責任者（プロジェクトリーダー）】（特非）東海地域生物系先端技術研究会 事務局長 岩佐精二

【研究開発プラットフォーム名】（持-72）東海バイオコミュニティ研究開発プラットフォーム

## 1 概要

### (1) 研究開発プラットフォームの概要

政府のバイオ戦略が掲げる市場領域のうち生物資源を活用する領域の拡大及び持続性の向上に資する研究開発及びその成果の社会実装（商品化、事業化等）に取り組む。

#### 事業実施前

・化学肥料・農薬への依存度が高い従来型農業は、世界情勢や気候変動の影響により環境負荷の増大や生産コストの上昇に拍車がかかっている。

・バイオスティミュラントは、生産コストを低減しつつ環境への悪影響が少ない資材として期待されており、その表示等に係るガイドラインが農林水産省から発表されている。

・一方、バイオスティミュラントは、多種多様でその現場評価が混然としている。

・また、事業モデルが発展途上であることや市場規模が不明であること、認知不足などの課題を抱えている。

バイオエコノミー推進人材活動支援事業

#### 事業実施後

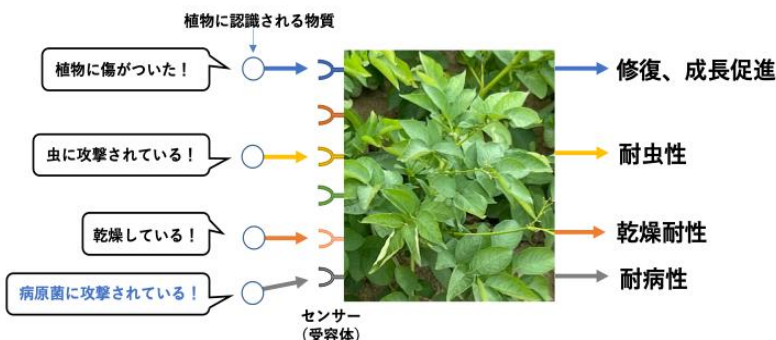
・バイオスティミュラント資材の調査により、一部で高い評価を得ているものの、知名度が低い地域もあり、アウトリーチ活動の必要性が確認された。

・レゾナック社から上市しているバイオスティミュラント資材「クロピコ」は市場から一定の評価を得ていることが確認された。

・「クロピコ」を中心に市場・技術・社会受容性の統合評価を行い、科学的エビデンスの強さやみどりの食料システム戦略等政策推進との整合性を有し、競合商品と棲み分けつつ優位性を示すことができることが明らかになった。

・セミナー、展示会等で認知度向上に取り組んだ。さらに、クロピコに別の成分を加えた新商品を、クロピコシリーズの次の商品として上市を目指す。

バイオスティミュラント資材による植物の免疫機構の活性化のイメージ



生産量増大  
化学農薬、化学肥料  
使用量低減

バイオスティミュラント資材は、作物の生理機能を活性化し、環境ストレス耐性や養分利用効率を高めることが可能。

## 2 事業概要と成果

### (1) ビジネスモデルの構築・検証

- ・セミナーや展示会、JA、農業関係委員会などにおいて、参加者への聞き取りによる情報収集を行ったところ、バイオスティミュラントの認知度が低く、機能も認識されておらず、ほとんど利用されていないことが明らかとなった。
- ・一方で、研究機関所属の研究者、企業の技術開発者は、科学的エビデンスを含むユニークな存在としてクロピコを認識していた。
- ・ビジネスモデルの構築のため、クロピコについてSWOT分析等の手法を用いて、日本バイオスティミュラント協議会、株式会社AOTアグリオ、株式会社レゾナックなどから情報収集し、特徴づけを行った。
- ・バイオスティミュラント市場は2類型（① ブランド・体感型 ② 技術・データ駆動型）に整理でき、クロピコは後者で、科学的エビデンス、政策適合性（みどりの食料システム戦略・GX）において優位性を示した。
- ・弱みとして、現場での認知不足、販売網未整備、多様なラインナップの必要性などが明らかとなり、アウトリーチ活動の重要性が示された。

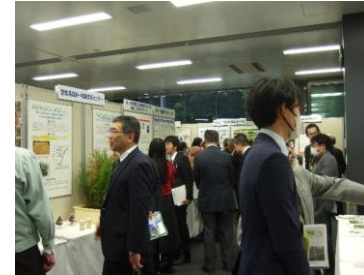
### (2) 事業内容や成果等の情報発信

認知度の向上を図るため、バイオスティミュラントに関する講演、バイオスティミュラント資材（クロピコ）に関するポスター発表やサンプル展示で情報発信を行った。

- ・アグリビジネス創出フェア 東京ビッグサイト（ポスター展示）
- ・アグリビジネス創出フェア in東海（ポスター・サンプル展示）
- ・第1回OKB-名大アグリビジネスカンファレンス（企画運営、ポスター展示）
- ・知の集積と活用場の場ポスターセッション（ポスター展示）
- ・オンラインセミナー（企画運営、講演）



アグリビジネス創出フェアにおけるバイオスティミュラント展示ブース（東京ビッグサイト）



アグリビジネス創出フェア in 東海



第1回OKB-名大アグリビジネスカンファレンス展示ポスター

## 3 今後の展開

- ・市場分析に基づく戦略、科学的エビデンスによる差別化、産学官連携の強化、外部資金・新規プロジェクト創出などによりバイオスティミュラント資材を継続的に発展させていく。
- ・今後は、科学的エビデンスを示しつつ、信頼性、製品安定性の優れた商品としてラインアップを増やしていく。
- ・すでに上市した商品との差別化を進める。
- ・東南アジア、中国、インド、南米などへの海外輸出、技術指導を展開する。
- ・(特非)東海地域生物系先端技術研究会が主催、共催、後援のセミナー、展示会などで情報収集と発信を継続する。
- ・特許出願中の物質をクロピコの次の商品と位置づけ、商品数の更なる増加を支援していく。

## 問合せ先

(特非) 東海地域生物系先端技術研究会 担当者 岩佐 精二  
(TEL : 052-789-4586、アドレス : npo-tokai@ab.auone-net.jp)